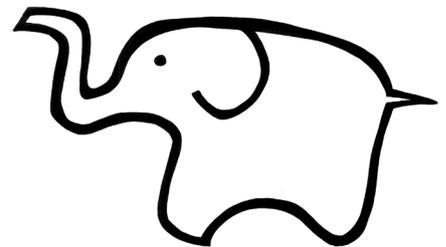


先日職員会議の中でぞう組さん（年長）の“居場所”についての話題が出ました。私はこれまで、場所が離れていてもここに戻ってくればまた変わらない関係があり、元のように過すことができると漠然と考えていました。しかし、離れて過ごすこの1ヶ月半の間にも、ぞう組同士きりん組（年中）同士で新しいお友だち関係が広がり、それぞれの子が居場所の再構築をしている事がわかりました。

先日、ぞう組さんが尾山台保育園で遊んだ時、ある子が当然のように“あの子と遊ぼう”というつもりで来たのですが、そのお友だちは違う子と夢中で遊んでいました。その子は「あれっ？」と戸惑っていたといえます。離れている場所でそれぞれが築いているものが、久しぶりに会った時にすれ違いを起こしてしまったのだと思います。担任はその光景を見て複雑な思いだったといえます。

今まで仲の良かった子と離れてしまい寂しいけれど、それでも新たな関係を築いて自分の居場所をつくっていくというたくましい力が子どもたちにはあります。それはとても自然な事であり、必要な力であると思います。ただ、大人が思っていた“また戻ってくれば変わらぬ居場所がある”という事は、離れて過ごしている以上、そんなに単純な話しではないのだとわかりました。



その話しを聞いた時に、離れてしまったという事の大きさに、切なさで涙があふれてきてしまいました。それと同時に、これからやらなければならない事がはっきりしました。

ぞう組さんの居場所は尾山台保育園であり、この保育園の年長さんであること、そして誇りを持って卒園まで過ごしてほしいという願いは変わりません。これからはただ工事の終了を待つのではなく、どのようにして戻ってくるぞう組さんを受け入れるのか、子どもたちと共に準備を進めていかななくてはいけないと思っています。保護者の方々とも思いをひとつにしてやっていきたいと思っています。

